骨董市でのおもてなし

～京都・家族旅③～

東京に続いて京都で行われた今回の「トルコ至宝展」。山口から行けばちょうど中間になる京都展に行くことになった。

もう一つの理由は東京よりも何かゆったりしていて他のイベントを楽しむことが出来るからである。そのNO・1は骨董市があちこちの神社や寺院の境内で行われること。その中でも最も有名なのは「東寺（とうじ）」の骨董市。東寺は平安京の景観を偲ばせ、弘法さんと親しまれた弘法大師の命日の毎月21日に露店の骨董市が並び、約20万人の人出で賑わう。本当はこの骨董市に行きたかったが、家族のスケジュール調整が出来ず、規模は小さい太閤・豊臣秀吉神社の骨董市に行った。

国宝の神社の境内等で骨董市が開かれることが許可されるところに何か京都のゆったりとした雰囲気が感じられ好感がもてる。

これに一番関心があったのは妻である。長年下松の愛のバザーで値付けを担当し、骨董市が大好きで「トルコ至宝展」よりもこちらの方に関心があったようだ。長女の話によると豊国神社の骨董市は最大の東寺の骨董市よりも歴史が浅く、出店数も少なくまだ素人臭いところがあるという。足が不自由な妻が立ち寄ると、すぐ椅子を出してくれる。このもてなしの心に感激し、つい沢山買う結果となった。

一通り見終わると私を境内の石段に座らせ、女性3人衆は2時間近く買い物を楽しんだ。一番の掘出しものはイギリスのロイヤル・アルバートのカップ。我が家にはすでに1月生まれの私のものと2月生まれの妻のカップはあったが、何しろ一客500円というので、家族全員の誕生月のカップを買い求めた。東京に住む独身の長女も妻におとらず骨董好きで、海外に旅した時はこの種の市を捜し、掘出し物を見つけるのがうまい。

わたしはイタリア製のピンク珊瑚の飾り物を見つけ、妻に言ったのだが、その時はそれには関心を示さなかった。私一人になった時、女主人は「200円サービスして1300円でどうですか」と言うので勿論買い求めた。帰宅して掘出し市の掘出し物を出し合う。

私の判断でのわりに人出は少なく、それが比較的簡単に値引きにつながったらしい。妻の買った「カメオのブローチ」も、本人は本物だと信じており、いいものを手に入れたと今も確信している。信じることは大切である。偽物も本物にする。

とにかく一家満足。長男夫婦も孫が保育園に行くため、京都までは無理だったが、同じ新幹線で広島まで我々に同行してくれた。

家族といえども他人のはじまり、そんな核家族時代の中で、家族共同体の絆は、意図的にでも行動を共にすることが必要だと思う。とにかく「京都・家族旅」は楽しい思い出になったことは間違いない。

国宝の豊国神社の骨董市

長男夫婦も同じ新幹線で

私が買った珊瑚の飾り物

買った珊瑚の飾り物について調べてみると、ピンクの珊瑚の飾り物は地中海の珊瑚の原木で価値があるらしく、珊瑚の間に貝を取りつけ、何となく地中海の旅を思い出す。

この日は雨も降らず陽も照らず骨董市のご主人は上機嫌。そ